

作業の目的

- ◆ 樹冠の中に光が入るようにします。
- ◆ 薬剤が樹冠の中まで届くようにします。

- ◆ 徒長枝は高刈りせず、必ず根元から切ります。
- ◆ 6月上旬に緑枝(若い徒長枝)を毎年整理することで、徒長枝の発生を抑えられます。
- ◆ 緑枝は、柔らかいので手で引き抜けます。
- ◆ 垂主枝や成り枝の枝元から出た徒長枝(緑枝)は、光の流れを阻害するので切ります。
- ◆ 緑枝は土に帰りやすいので、切り終えた枝を処理する作業を省くことにもつながります。



高切り



緑枝



根元から切る

作業の目的

- ◆ 枝折れを防止します。
- ◆ 樹冠の内部に光を入れます。

- ◆ 長くなった枝、りんごが成って重くなった枝を支えます。
- ◆ 支柱入れは、仕上げ摘果から葉摘みまで、随時木の状況を観察しながら行います。
- ◆ 樹間の内部まで光を入れることで、果実の着色、食味、そして来年の花芽の生育を良くします。
- ◆ 夏場の温度の高い時は、日焼けの原因にもなるので、天気には注意して支柱を入れます。



支柱入れ前



支柱入れ後